

#### 4 八重樫昌宏君の逝去を惜しんで

八重樫会長が、平成16年の新年会席上で「古希も過ぎたことでもあり、長年続けてきた寒い中での新年会もいいが、新たに違った形で親交を深めることが出来ないだろうか」と提案して始まったのが『在盛同期会』でした。17年は・観桜会、18年は・懇親会、19年に名称を『在盛同期会』と決定して第1回在盛同期会を実施したのです。20年第2回、21年第3回、22年は喜寿慶祝記念と銘打って全国の同期生に案内し同期会を実施したのです。

ところが、平成23年3月11日（金）午後2時46分、未曾有の巨大地震（マグニチュード9.0）の衝撃、東北地方を中心とする東日本全域を一瞬にして呑み込んだ、想像を絶する巨大津波の発生でした。

上記の東日本大震災発生で甚大な被害をもたらしたことで、34年以上も続けてきた我が四回生の集まりが実施不能となり、23年に“ぷつつり”と途絶えてしまったのです。

※ 平成23年6月2日八重樫会長から

（※電話での話の内容）

「定例の懇親会（在盛同期会）を今年は実施しないことにしました。いろんな顔があったし…（省略）」

「又、落ち着いてきたら逢いましょうや」との緊急連絡が入ったのです。

八重樫会長は、一昨年の『喜寿慶祝記念同期会』に体調を崩しながらも参加し、同年11月30日深夜に、突如、狭心症を起こし、岩手医大循環器センターで2度にわたる冠状動脈のカテーテル手術を受けたのです。

年の瀬が迫り、医師からは「ほぼ修復しかけているので」と、同22年12月29日に退院の許可が出て、大晦日・正月と正常生活に復帰していたのです。その後は通院治療を続けていたのですが、更に治療点滴の必要から再度入院し、大地震が起きた平成23年3月11日の日は、なんと岩手医大に入院中だったのです。

ところが、県内全域で停電が続く実状で、医大の自家発電も底をつき点滴もできなくなってしまい、家庭退去を宣告され、退院したのはいいが大変な目にあったと話しています。

（※上記の話は平成23年6月2日・直接八重樫君から話された電話での内容です）

そして、平成23年9月23日午後9時38分、北田より「八重樫君が倒れて医大の救急センターに運ばれた」との緊急連絡を受け、北田が病院に駆け付けたときには、『意識が全くない昏睡状態で…』話ができなかったとの事でした。

翌、9月24日、佐々木敬一、北田昭三、廣田庄一の3人で救急病院に見舞いに行ったが『今、自宅に帰りましたよ』と言われたそうです。

八重樫昌宏氏・平成23年9月24日午前1時・脳出血のため盛岡市内の病院で逝去する

八重樫昌宏儀には、岩手高校四回生同期会会長として、長期にわたり会の推進、発展のために多大な力を注いで頂きました。優れた力量を発揮し、指導的役割を果たし、明るさ思いの豊かさ等、いつも啓発される思いでした。

酒を飲めば、決まって第三応援歌などを、歌詞を一つも間違えることなく朗々と声高らかに歌い上げ、楽しくてしようがないといった表情でした。

常にわれわれの先頭に立ち、会の充実を図り、絆を深めてくれたことを留めておきます。

ここに、生前のご厚誼に深謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

生前「同期生が逝去して行くのは世の習いだが、少しでも長く生きる努力をし、再会しましょう」と話されたことを思い出しております。

残念でなりません

平成24年6月15日

文責・吉川